

(別紙)

平成24年度学校業務改善支援プログラム実施に係る取組報告書

学校名 香美町立香住小学校
学校長名 山本 真

<p>1. 加配された事務職員が取り組んだ業務内容</p> <p>(1) 職員会議におけるICT活用の定着（完成）</p> <p>(2) 通知表の電子化補助（完成）</p> <p>(3) 指導要録の電子化補助（実施予定）</p> <p>(4) データベース化した基本資料の整理と組み直し（完成） 児童名簿、出席簿、学校評価、記録簿、授業時数、動静表、成績、保護者アンケート、職員アンケート、清掃分担表、固定時間作成、抄本等をデータベース化し時間短縮を図る。</p> <p>(5) 新校舎完成に合わせた学校ルールブックの改訂を計画、指示、作成</p> <p>(6) 図書室の蔵書管理と貸し出しシステムの電子化（完成）</p> <p>(7) 学級集金の現金から口座振替への移行推進（途中）</p> <p>(8) 連携校（3小学校）との取組交流（6月・3月）</p> <p>(9) 連携校が実施した職員研修会において業務改善に係る講話を実施 (8月)</p>
<p>2. 加配事務職員を有効活用し、配置目的を達成するために取り組んだ内容</p> <p>○職員会議でのICT活用、通知表、指導要録の電子化は職員の負担を解消し、学期末に時間を大幅に短縮することができた。学期末に放課後、児童と向き合う時間の確保ができた。</p> <p>○基本資料のデータベース化により、学校事務の軽減が図れた。作業時間の短縮で週に3回程度、昼休み35分間児童と向き合う時間が確保できた。</p> <p>○新校舎完成に合わせた学校ルールブックの改訂を推進したことにより、新校舎での生活がスムーズに行えるようになり、生徒指導にかかる時間が短縮できた。週に3回程度休憩時間（25分間）に児童と向き合う時間を確保することができた。</p> <p>○図書室の蔵書管理と貸し出しシステムを電子化することにより、業務の軽減が図れた。週に1回程度放課後児童と向き合う時間の確保ができた。</p> <p>○修学旅行の集金を口座振替にして業務の軽減を図った。学級集金も口座振替にするよう推進している途中である。</p> <p>○連携校を訪問し、お互いの取組を交流したり、中心校の取組等（通知票及び指導要録の電子化等）を紹介したりすることで連携校の業務改善に対する意識や取組が変わってきた。</p>